

令和5年度 鳩里小学校 学校関係者評価

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え学び続ける子の育成

—人間尊重、生命尊重の精神を基盤に、豊かな心と自ら学ぶ意欲や態度を育て、生きがいをもって生きぬく人間の素地を養う—

2 本年度重点目標

- (1) 児童一人一人が認められ、大切にされる学校づくりの推進
- (2) いじめを許さない、自他のいのちと心を大切に作る豊かな心をもつ児童の育成
- (3) ICTの効果的な活用、協同的探究学習を通して、「確かな学力」を育む授業実践
- (4) SDG s の考えを取り入れ、持続可能な社会の担い手を育む教育活動の充実
- (5) 学校運営協議会及び学校園連携ユニットの活用による地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 働きがいを感じる学校組織力及び教職員の資質能力の向上

3 関係者評価

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ(学校関係者評価)	達成状況
(1) 「わかる学力」の育成(思考力・判断力・表現力の育成)	A	協同的探究学習のさらなる充実を図るとともに、ペアやグループ学習などによる協働学習の場を積極的に取り入れる。	加古川市教育委員会が進めている協同的探究学習を大学教授とともに熱心に教育に取り組んでいることが分かる。算数や国語でもさらに研究を充実させてほしい。	A
(2) ICTの活用	B	ICTを活用した授業事例の共有化をさらに進め、ICTを効果的に活用した授業づくりを進める。	発表が苦手な児童の意見もICTを使って集約したり、個人に合わせてドリルを進めさせたりとよく活用されている。筆記も大切だと考えられるので学習のバランスを取って進めてほしい。	A
(3) 自己肯定感を育む人権教育の充実	A	命の学習を中心とした人権教育をさらに進めるとともに、人権フェアなど家庭・地域との連携をさらに深める。	命の学習について児童・保護者ともに高い関心を持って取り組んでいることは評価できる。自己肯定感を高めるため、児童一人一人を他と比較せず、前よりもできるようになったことを認めてほしい。	A
(4) 居場所のある学校・いじめを許さない集団づくり	A	児童主体の活動をさらに充実させるとともに、道徳や人権などの学習との連携を図り、さらに効果的な活動となるよう進める。	教員が「いじめを許さない」という意識を持ち、日々児童や保護者と向かい合っている。自分だけでなく他の人も自分と同じように大切にすることを育んでほしい。	A
(5) 情報モラル教育の充実	A	情報モラル教室を複数学年・回数実施するとともに、家庭でのルールづくりなど保護者への啓発をさらに進める。	情報モラル教室の回数を増やすなど情報モラル教育の充実に熱心に取り組んでいる。児童・家庭の意識を高めるため、調査結果をふまえ、引き続きスマホの使い方について啓発を進めてほしい。	A
(6) 授業力の向上	A	系統的・計画的な研修を設定するとともに、教職員による相互参観などを実施し、授業力向上を図る。	系統的な研修に取り組んでおり、アンケート結果から効果的な取組となっていることがわかる。さらなる授業力向上に向けて、今後も継続して取り組んでほしい。	A
(7) 勤務時間等の業務改善への意識向上	C	教職員が心身ともに健康であることへの意識をさらに高めるとともに、行事の精選を進め、働きがいのある学校づくりを進める。	業務改善を行おうとする意識はどの教員にもみられる。会議の取捨選択、行事の精選など少しずつ進めていけばよい。	B